

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念に基づき、市介護保険課職員・公民館長・民生委員・NPO代表・家族代表・施設職員で構成した推進委員会を設け地域交流の打合せを実施して、行事に地域交流の場を設け実行している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域交流が実施されており、なお強く理念の自覚ができ、理念の共有化が図られ日々理念の実践にむけて取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	推進委員会に家族代表も参加し理念について理解していただいている。行事には家族・地域の方々に参加していただき、理念について理解してもらえよう取り組んでいる。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	グループホームの近所の方々とは、気軽にあいさつを交わし、その中で生活面の話題も含みながら情報交換をしたりしている。年配者も多く、介護が必要なこともあったりで、必要時には迅速に対応したこともあり、併設のデイサービスの利用等で支えていることがある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加はしていないが、推進委員会や年間行事への参加呼びかけなどで、年間を通して交流をもっている。近所に介護系の学校もありボランティアのお願い・受け入れを実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	推進委員会を利用して民生委員や公民館長等と話し合い、役立つことがあれば実行可能としている。併設のデイサービスの開放も地道ではあるが実施している。	○	デイサービスの開放をもくろみ、地域の方々に利用いただく機会を少しずつ増やしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価報告書を全職員に回覧し理解を図るとともに、評価や改善点を把握してもらい、できることから改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回推進委員会を開催し、グループホームでの状況を報告するとともに、話し合いの中で出た意見を取りまとめ、職員に伝達し業務に取り入れるなどして、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進委員会に参加していただくことで話しやすくなってきたこともあり、別件で市役所を訪れた際には、少し話をする機会をもち情報交換をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については研修に参加して学び、過去1名の入居者とその運用について話し合い支援をした。現在の入居者に関しても、この先必要と思われる方については話し合いの機会をもち支援していく。		今後必要と感じられる方に対して支援をすすめていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回の職員会議で、意見を出し合い、虐待の防止の徹底に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時に利用者・家族と十分に話し合い、利用者や家族の不安や疑問を尋ね、十分な理解と納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情はいつでも伝えてもらうよう日ごろから伝えており、常に聞き入れるようにしている。伝えられたことは、運営に反映させている。また苦情相談のポスターを掲示し、外部者へ苦情を伝えられることも示している。	○ 不満・苦情を第3者として専門的な立場の方(相談員など)に来所してもらって個々に聴いてもらうような機会を持ちたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑だよりを月に1回発行し、日常生活や通院状況など報告している。面会時や毎月の利用料の支払いで来所された際には、個々の状況報告と金銭管理の状況を伝えている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情はいつでも伝えてもらうよう御家族等に伝えており、常に聞き入れるようにしている。伝えられたことは、運営に反映させている。また苦情相談のポスターを掲示し、外部者へ苦情を伝えられることも示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議や日ごろの意見交換の場(引継ぎ時等)で、意見や提案を聴き、その都度反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	施設長との取り決めや職員間での話し合いにより、勤務調整ができるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1号館・2号館の職員はそれぞれで構成し利用者が慣れた職員で運営し介護にあたっている。離職の場合は理解できる利用者には状況を伝えたりして、混乱を防ぐ配慮をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	職員募集・採用時は性別や年齢に関係なく、やる気のある人で理念や、苑の方針・考え方を理解できる人を採用し、生き生きと能力を発揮できるような環境づくりに努めている。	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	利用者の人権に関しては職員はあたりまえのこととしてとらえており、管理者等は日常的に言動に気をつけるよう伝えている。	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設内での研修を実施したり、施設外での研修にも参加を促すなどし、その内容を発表する機会をつくり育成している。	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者主催の研修に交代で職員が参加し、他施設職員と勉強し意見交換をする機会を持つなどして、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員間で常にいろいろな話をできる雰囲気が出来ており、お互いに相談しあってストレスの軽減を図っている。	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように、勤務時に対話しアドバイスをしたりしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人から様々な思いを聞き入れ、不安のない生活が出来るように努めている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族から様々な思い・意向を聞き入れ、受け止める努力をしている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、短期の仮入居をすすめ、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら入居を勧めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、日常生活のあらゆる場面で利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族を支援される一方の立場におかず、状況を報告する中で家族からの支援を要請するなどして、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>利用者と家族の関係を把握し、お互いの言いにくいことを伝え聞き、双方のパイプ役としてよい関係を構築しながら支援している。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>なじみの人の面会は歓迎しており、継続して来ていただいている。たまには、出かけたついでに馴染みの場所に寄ったりして、そこを忘れないように努めている。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、食事の席を考慮したりして一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。全員参加での体操などで部屋への閉じこもりも減っている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>必要に応じて、サービス利用が終了した方に時々電話をしたりして安否を確かめあっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族との話を参考にしながら本人本位に検討している。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めているが、利用者によっては昔を知られたくない方や忘れていて分からない方、家族でも把握できない方などがいる。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の日報の記録からの情報や日々の状態を観察することで、総合的な状態を把握するように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、利用者、家族、職員とそれぞれ話し合う機会をもち、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前の急変等に対しては利用者、家族、職員と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録(日報)に様子や、特変など記録している。それをもとに職員で話し合いをし、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所にデイサービス・ヘルパーステーションも併設しており、入所前の在宅時はそれらを利用して利用しており、その時の状況に応じて対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの駐在所や、民生委員・公民館長ボランティア・消防署などの協力があり支援していただいている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の意向や、必要性を考慮して他のサービスを利用するための支援をしている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ必要性がないため、地域包括支援センターとの協働の支援は実施していない。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添ってかかりつけ医を選択しており、個々で異なる病院に受診している。それぞれのかかりつけ医と関係を築き、特変等あったときはすぐに連絡し対処してもらっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>該当者が出てきたときは、終末期に関しては、看護職員やかかりつけ医の意見をもとに家族等と繰り返し話し合いの場をもち、苑での終末ケアが可能であれば意向に沿った方針を全員で共有してケアにあたっていきたい。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいきたい。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っていきたい。</p>
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
53	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
54	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
56	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
57	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関する調査を実施して各自の排泄状況を把握し、夜間オムツのかたでも、日中は紙パンツやパットで過ごし時間ごとにトイレ誘導をして、できるだけトイレでの排泄を勧めている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に応じて入りやすい(暖かいなど)時間帯を入浴時間に設定し、個々の希望やタイミングを見ながら入浴をすすめ支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ケースバイケースで個々に応じた休息時間をとっている。起床や就寝も個々のその日の状況にあわせてとってもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木などの手入れが好きな方には役割を担ってもらいながら手入れをしてもらい、趣味がある方にはその趣味ができるように、必要物品をそろえるなどして、支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、買物に出かけたり、暖かい日は近くの公園に散歩にでかけるなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	各時期の花見(桜・菖蒲・紅葉など)や、希望の店(食事処・衣料品)など機会を作って出かけている。外出で、家族と共に墓参りや食事に出かけることもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は本人につないで話してもらったり、家族にかけたいときは援助している。手紙を出したい時はそれに応じて物品を用意したり、ポストまで付き添ったりしている。本人宛の手紙は基本的には本人か家族に渡している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の制限は特になく、家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問できている。本人の居室を使用してもらうようにしてプライバシーに配慮し、居心地よく過ごせるように心掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしない介護に徹底して取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がなく、玄関も夜勤帯以外の日中は鍵をかけず、見守りがあれば誰でも苑庭で自由に過ごせるようにしている。		
68	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に研修をしたり、訓練をしたりして、知識を学び個々の状態にあわせた対処法で事故防止ができるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを利用して研修をしたり、看護職員から手当てについて指導を受けたりしている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施し消防署員から指導をうけている。今年は地域からの参加も呼びかけ、地域の方の協力が得られるよう取り組んでいる。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々に起こり得るリスクについては、職員間で話し合い、本人や家族に説明し、抑圧感を感じないように生活できるよう支援している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が個々の体調を把握し、毎日の様子の変化に努めて観察しながら支援している。特変があったときは他職員と協議するなどして、処置や受診等の対応をしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法用量については、職員間で共有し理解している。量や種類が変わったときは注意して観察しかかりつけ医に報告している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘症の利用者もおり、服薬と共に、食事面のメニューの工夫や便秘体操、便秘の治るツボ押しなど様々な便秘予防対策を行なっている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者に応じて毎食後、うがいをしたり入歯洗浄をしたりして口腔ケアに取り組んでいる。自分で出来る方は、できるだけ自分の意思で清潔に心掛けてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量ともに個々に応じた量を摂取してもらっている。排泄の状態も加味し摂取量等に注意している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを利用して研修をしたり、かかりつけ医や看護職員から助言をもらいながら感染予防に努めている。隔離や洗濯方法、対応法などその時に話し合い取り決めて実行している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の整理整頓や掃除は常に行い。調理器具の衛生管理に努めている。食材も新鮮なものを使用し、期限内に使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	苑庭の整備をして花壇を作り、利用者と一緒に花を植え明るく親しみやすい環境作りをしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレは誰もが不快なく使用できるように、常に清潔を心掛けている。食堂には、季節の花を飾り、居間や廊下には利用者と一緒に季節ごとに作成する作品を飾って共有空間づくりをしている。暖かい日はテラスで過ごしたり、冬場はこたつを準備したり季節に応じて工夫している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで雑談したり、テレビを見たり、こたつで横になったり、庭で日光浴をしたり、それぞれが好きな場所で過ごせるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、いままで使い慣れたものや好みのもの設置し、好きな配置にして本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や空気清浄機等を使用して匂いや空気のだよみがないように努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況や希望に応じて、その日の天候や時間帯等にあわせてこまめに行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで歩行してもつまづかないように、また車椅子の自操をする方にもしやすくなっている。2人並んでも通れる程度の廊下幅もあり自分で自由に動けるようにしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや部屋に鈴(呼び鈴)を置き職員を呼ぶ時に知らせてもらったり、ポータブルトイレを設置し夜間のトイレを自分で出来るようにして個々に合わせた環境づくりをしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭の整備をして花壇を作り、利用者と一緒に花を植えたり、テーブルや椅子を設置して外での食事や外気浴・レクリエーションなどをして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームめぐみの里は、通りから少し見上げる小高い丘を利用して、中央にデイサービスセンターそれを挟んで両側に向かいあうように1号館・2号館の2ユニットを設けています。各ユニットは、それぞれ特徴があり違った雰囲気をもっています。本人や家族の希望を重んじ、個々の性格や性別、介護状態などを加味してそれぞれのユニットに入居されています。運営理念の「その人らしく、いきいきと」を目標に、施設長はじめ管理者、各専門職員、介護職員等介護に関する知識・技術を持ったスタッフがそろい、一丸となって毎日の介護・支援に力を注いでいます。昨年には、施設周辺の環境整備を行い、玄関から庭・花壇・小さな畑も整えられ外での活動も増えています。また、施設周辺では、四季折々の自然を身近に感じられ、春はうぐいすの声で目覚め、夏は竹林の風の音で涼み、秋は木々の紅葉を眺めて過ごせます。施設内の山菜を採り、季節にちなんだ食事を提供し、施設にいても外の空気に触れながら、五感で季節を感じてもらえるように努め、利用者の皆さんには至福の時間を過ごしていただいています。